
2013年度(第91期)事業報告書

技術と社会部門：

部門長 池森 寛 他 運営委員 40名, 総務委員 19名

運営委員会開催 2回, 総務委員会開催 4回

- 1) 総務委員会の下に設置された3委員会および機械遺産委員会, 研究会, 技術ロードマップ委員会委員, 各担当委員で部門運営にあたった。
- 2) No. 13-1 2013年度年次大会(9月8-11日, 岡山大学津島キャンパス)において, OS2件(部門単独), WS2件(部門単独)を企画・開催した。OSの内訳は, S201 技術教育・工学教育25件, S202 機械技術史・工学史8件である。また, 各実行組織の報告事項として後述するが, 「機械遺産委員会によるパネル展示」と「スターリングエンジンの教育から実用まで」の部門単独2件の市民対象行事を企画・開催した。9月9日に部門同好会を岡山大学生協食堂で開催し, 19名が参加した。
- 3) No. 13-67 部門講演会「技術と社会の関連を巡って: 過去から未来を訪ねる」(2013年11月30日, 徳山工業高等専門学校)を日本設計工学会との共催により開催した。「技術教育・工学教育」, 「機械技術史・工学史」, 「設計教育・CAD教育」, 「エネルギー教育・環境教育」の4つのオーガナイズドセッション, 「中国地方の産業技術と技術史」の特別セッションおよび1つの一般セッションを設け, 55件の講演が行われ, 76名が参加した。
- 4) No. 13-128 見学会「山口県瀬戸内地方の技術史を訪ねて」(2013年12月1日, 山口県周南市および下松市)を開催し, 17名が参加した。
- 5) 会誌2014年8月号「機械工学年鑑 第22章」について2頁配分を受け, 執筆分担を1. 概観(池森寛部門長), 2. 技術・工学教育(佐藤智明委員), 3. 技術史・工学史と機械遺産認定(大久保英敏機械遺産委員長), 4. 技術者倫理(高田一委員), 5. イブニングセミナー(奥村喜勝委員)とした。
- 6) 当部門から本会イノベーションセンターの技術ロードマップ委員会に吉田敬介委員を委員として派遣し, 本会の運営活動に協力した。
- 7) 総務委員会は, 「持続可能なエネルギー利用に関する工学教育研究会」の設置申請を許可し, 部門協議会においてその設置が承認された。
- 8) 広報委員会は, 2013年8月2日付けで部門ニュースレター(NL) No. 29を部門ホームページ上に発行した。さらに2014年1月に部門ニュースレター(NL) No. 30を発行する予定である。
- 9) 機械遺産委員会は, 2013年度認定機械遺産候補を選定し, 6件が認定された。
- 10) 機械遺産委員会は, 2013年度機械の日における機械遺産認定式典(8月7日, 東京・東京大学山上会館)に出席し, 認定機械遺産6件を解説・報告し, 開催に協力した。
- 11) 機械遺産委員会は, 2013年度年次大会(岡山大学)において, 市民対象行事として9月9日から11日まで大会会場の岡山大学にてパネルの展示を行った。
- 12) 機械遺産委員会は, 機械遺産に関するNHKなど多数の報道機関の取材に協力した。
- 13) 表彰委員会は, 2013年度年次大会(岡山)の期間中, 9月9日に開催した部門同好会において, 大久保英敏氏(玉川大学)に2012年度部門賞の功績賞を贈賞した。また, 2012年度部門一般表彰の優秀講演論文表彰を, 加藤義隆氏(大分大学)と, 渡辺隆介(千葉大学)・安藤潤人(都立産業技術高専)・加藤航甫(都立産業技術高専)・吉田喜一(都立産業技術高専)の各氏ら, 2件に贈賞した。
- 14) 表彰委員会は, 運営委員会の審議結果に基づき, 吉田敬介氏(九州大学)を2013年度組織推薦によるフェロー候補として応募し, 理事会において承認された。
- 15) 表彰委員会は, 2013年度部門賞(功績賞, 業績賞)と部門一般表彰(優秀講演論文表彰)の候補について1月6日に応募受付を締切り, 審議中である。
- 16) イブニングセミナー実行委員会と旧技術と社会問題研究会が中心となり, イブニング

セミナーを3月27日（福島原発事故と放射能の人体へ及ぼす影響）、4月24日（君達にはいい事があるかね？記録映画「夢と憂鬱ー吉野馨治と岩波映画」の上映）、5月29日（ロボットが街を走るー搭乗型移動支援ロボットの公道実証実験ー）、6月26日（種から始める無肥料自然栽培）、7月31日（コーヒーを香りから愉しむー実習付きー）、8月28日（宇宙を学ぶ・宇宙に学ぶ）、9月25日（再生可能エネルギーの本格利用を支える新たな揚水発電プラントの開発ー欧州における最近の動向ー）、10月30日（新宿の寺は「よろず相談寺子屋」）、11月27日（明治大学平和教育登戸研究所資料館の紹介）、12月18日（低線量放射線被曝のリスクを再考するー“科学と社会”の視点からー）、2014年1月29日（いつも楽しく新しいことをやる！）の計11回開催した。会場としては、明治大学駿河台キャンパスを使用している。また、今年度初めての試みとして11月29日に山口県周南市において地方開催（日本とアメリカにおける倫理観の相違）を行なった。

- 17) 旧技術倫理委員会およびエンジニアリングリスク研究会関係者は、5月18日と11月9日に特別講演会「技術者のための技術者倫理セミナー」を明治大学駿河台キャンパス（リパティタワー）にて開催した。それぞれ15名と14名の参加者があった。11月9日のセミナーの様子については2014年1月発行予定のニュースレターにて報告する予定である。
- 18) 旧技術倫理委員会およびエンジニアリングリスク研究会関係者は、セミナー企画のため、4回の打ち合わせを行った。
- 19) ブルネル・スピリット研究会は、昨年度開催した「ロンドンオリンピックの開会式での演出を読み解く」ことを主題とした特別講演会について、日本機械学会誌 TOPICS 記事に『ロンドンオリンピック 2012 の開会式に登場したブルネルをご存知だろうか？』を報告した。また、日本機械学会 2013 年度年次大会（岡山大学）および技術と社会部門講演会において、委員が関連する研究発表を行った。
- 20) スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は、2013 年度年次大会（岡山大学津島キャンパス）において、9月8日に市民対象行事として「スターリングエンジンの教育から実用まで」を実施した。エンジンシステム部門の「スターリングサイクル機器を題材にした実践的技術者教育に関する研究会」の協力を得て5件の講演を行った。講演者等スタッフを除き19人の参加者がいた。この講演会は、公開研究会としての位置付けである。2014年1月発行予定のニュースレターにて報告する予定である。
- 21) スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は、大分大学との共催で、大分県の少年少女科学体験スペース 0-Labo オーラボを会場に、10月12日に第3回低温度差スターリングエンジン競技会・発表会を開催した。参考出品を含む8組の動作実演があり、オーラボのスタッフを除き44人が出席した。なお写真しかなく名簿に記載が無い参加者がいるため、事務局では43人と判断している。本行事については2014年1月発行予定のニュースレターにて報告する予定である。
- 22) 技術教育・工学教育研究会は、2013 年度年次大会において、OS S201 技術教育・工学教育を提案し運営した。また、日本産業技術教育学会主催の「第16回エネルギー利用技術作品コンテスト」の第2次審査委員会（2013年10月19日、静岡大学教育学部）に審査員として佐藤智明主査を派遣した。
- 23) 持続可能なエネルギー利用に関する工学教育研究会は、日本大学工学部との共催で、「第6回新☆エネルギーコンテスト」（2013年9月28日、日本大学工学部70号館）を開催し、これに併せて「新☆エネルギーコンテスト」ホームページ（部門ホームページからリンク）の立ち上げ、イベントへの協賛（賞品提供及び審査）企業確保、ポスター集の出版に関する活動を行い、7社1団体の協賛を得た。参加作品は17作品で、当日の参加者は63人であった。次年度も日本大学工学部（郡山）を会場に開催することが決定している。本行事については2014年1月発行予定のニュースレターにて報告する予定である。
- 24) 東海支部総会講演会（2013年3月19日、三重大学）において、技術と社会部門のセッションを設け、13件の講演を行い、ミニシンポ「人間にとって技術とは何か、自然とは何か」を開催した。

- 25) 九州支部総会講演会 (2013年3月13日, 九州産業大学) にて技術と社会部門のセッションを九州支部と合同で「工学教育および社会貢献」のオーガナイズドセッションと1つの一般セッションを設け, 10件の講演を行った.
- 26) 国際会議として, 第7回経営と技術移転に関する国際会議(The 7th International Conference on Business and Technology Transfer, ICBTT2014) (2014年12月4-6日, 独国マクデブルグ大学)の開催を計画した.
- 27) 学会連携活動として, 日本技術史教育学会が2014年8月21, 22日にブータン王国で開催する2014年度ブータン国際会議(ICESTEH 2014 Bhutan)への協賛依頼を承諾した. 本件は企画理事会に上申・承認され, 矢部彰会長と池森寛部門長が同国際会議のアドバイザーに就任した.
- 28) 社会連携活動として, 福岡県久留米市が2013年12月30日~2014年1月16日に開催した「からくり儀右衛門展」(2013年度機械遺産「からくり人形・弓曳き童子」を中心とした企画, 石橋美術館にて)への後援依頼を承認, さらに企画理事会に上申・承認され, 催しには部門長も参加し, 日本機械学会をPRすることができた.

〔所属研究会〕

- A-TS 20-15 ブルネル・スピリット研究会
主査 佐藤建吉 幹事 与儀博
- A-TS 20-16 スターリングエンジンを活用した工学教育研究会
主査 加藤義隆 幹事 吉田敬介
- A-TS 20-17 技術教育・工学教育研究会
主査 佐藤智明 幹事 渡辺辰郎
- A-TS 20-18 エンジニアリングリスク研究会
主査 高田一 幹事 村田良美
- A-TS 20-19 持続可能なエネルギー利用に関する工学教育研究会
主査 佐々木直栄 幹事 大久保英敏